

Syllabus

令和6年度 43期生

授業科目	文学Ⅱ			担当教員	辻尾 修
				実務経験	無
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	2学年前期 15時間
経歴・役職	元公立高校教員				
授 業 目 標					
「文学Ⅰ」で学んだことを土台にして、医療現場のみならず実社会において求められる実践的な国語力を身につける					
成 績 評 価 の 方 法					
定期試験を8割、出席状況・課題の提出・授業態度等を2割とし、総合的に評価する。					
教 科 書 と 参 考 文 献					
各種文献・新聞・参考書・問題集等を参考にし、プリントを準備する。					
履 修 上 の 注 意					
特になし。					
No.	授業題目・授業概要				
1	1 「国語力」とは 2 「漢字」(1)漢字の読み(教養としての漢字の読み、特殊な漢字・専門語の読み方) ※文学Ⅱの授業等に関するアンケート				
2	3 「漢字」(2)漢字の書き取り (書き取りのおさえどころ、同音意義の漢字・専門語の書き取り) ※「対話で語彙力アップ」				
3	4 「表現」(1)ことわざ・四字熟語・慣用句(意味・誤用など) ※「歯を詠んだ短歌・俳句・漢詩」				
4	5 表現(2)間違った表現(重複表現など) ※「少しの違いで文章は一変。駄文を名文にする方法」				
5	6 表現(3)待遇表現(尊敬・謙譲・丁寧・美化)など ※「言葉遣いの大切さ」(美しい言葉遣いは一生の宝物)				
6	6 表現(4)よい文章とは(コラムに学ぶ、文体の統一・推敲の仕方など) 歯科医療・健康をテーマとした内容で小論文を書く。				
7	7 「表現」(5)スピーチをする 歯科医療・健康をテーマとした内容で2分間スピーチをする。				
8	8 まとめと試験				
9					
10					

授業科目	英語 II		担当教員	Caroline Kim	
			実務経験	無	
授業形態	演習	単位数	1単位	開講時期	2学年前期
経歴・役職	英会話スクール講師・進学塾英語講師				
授 業 目 標 (Course Objectives)					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面や状況の会話に多く触れ、リスニングやスピーキングの実践的な練習を取り入れることによって、気持ちを伝えられるようにする。 ・歯科医院内で想定される基本的な質問事項を英語で表現できる 					
成 績 評 価 の 方 法 (Grading)					
定期試験80%・課題 & クイズ 10%・授業態度10%の総合評価					
教科書					
・歯科用英語ハンドブック(即戦力のトレーニング) 医学情報社					
履修上の注意					
毎回覚える重要単語があるので、書き足すためのシート(ルーズリーフ等)を用意する 教科書、英語辞典、プリント、プリントホルダーをいつも用意する 学習者の学習ペースに合わせて授業計画を変更する場合もある					
授 業 題 目 ・ 授 業 概 要 (Course Content)					
No.					
1	Orientation & Review Structure and types of teeth Unit 1. Appointment	オリエンテーション、歯の構造・名称 電話の予約			
2	Unit 2. At the Reception Desk (1)	受付にて：来院の目的と既往症			
3	Unit 3. Before the Treatment (1)	治療前の指示			
4	Unit 4. At the Reception Desk (2)	受付にて：治療後			
5	Unit 5. Before the Treatment (2)	治療の経過			
6	Unit 6. Taking an X-ray	レントゲンの撮影			
7	Review Unit 1 - Unit 6	まとめ			
8	Unit 7. Dental Care	歯の手入れ			
9	Unit 8. How to Brush Your Teeth	正しい歯磨き			
10	Unit 9. Smoking and Eating Habits	喫煙と食生活			
11	Unit 10. How to Prevent Gum Disease	歯周病対策			
12	Unit 11. Dental Health of Infants	乳幼児の虫歯予防			
13	Unit 12. Health Activities	歯の健康のための活動			
14	Unit 13. At an adult Daycare Center	デイケアセンターにて			
15	Review Unit 7 - Unit 13	まとめ			

授業科目	地域歯科保健学（歯科衛生統計）			担当教員	介田圭・田浦勝彦
				実務経験	有：
授業形態	講義・演習	単位数	2単位	開講時期	2学年後期（40時間）
経歴・役職	<p>（田浦）1974年から2012年まで東北大学歯学部予防歯科で公衆歯科衛生の教育・疫学研究に従事するとともに、宮城県内の歯科衛生士専門学校で公衆歯科衛生・歯科衛生統計の講義を担当した。さらに、東北大学病院予防歯科で歯科医師として臨床に従事し、ならびに地域歯科保健活動を支援してきた経験を活かして本講義にあたる。</p> <p>（介田）長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔保健学講座助教・柔鍼スポーツ専門学校公衆衛生非常勤講師（2013～2016）、九州調理師専門学校公衆衛生非常勤講師（2015～2016）長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保存修復部門助教（現在）病院にて歯科医師として勤務。臨床現場（一歳半健診含む）の経験をもとに地域歯科保健学の指導にあたる。</p>				
授 業 目 標					
<p>高度な情報化社会において、さまざまな保健情報を取捨選択してうまく活用し、科学的な思考で歯科衛生活動が展開できる歯科衛生士になるべく、歯科衛生活動に必要な保健医療情報の収集と取捨選択から、収集したデータの処理と解析まで、目的に応じたステップを踏んだ科学的なアプローチが習得することを目標とする。</p>					
成 績 評 価 の 方 法					
出席 [10%] , レポート等 [10%] , 定期試験 [80%] （ただし、両名の担当教員で折半する）					
教科書と参考文献					
最新歯科衛生士教本「保健情報統計学」 学生版 だれにでもできる小さな努力で確かな効果 （有）砂書房					
履 修 上 の 注 意					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要 ・ 到 達 目 標 (SB0s)				
1	データと情報 保健情報の種類	1) データと情報の違いを説明できる。 2) 情報の性質を理解できる。 3) エビデンスのレベルを説明できる。			
2	保健情報と保健統計	1) 母集団と標本を説明できる。2) 標本抽出法を説明できる。3) 標本抽出法を説明できる。 4) 国家保健統計を説明できる。 5) 歯科疾患実態調査を説明できる。			
3	保健情報と疫学（1）	1) 疫学の目的を理解できる。 2) 因果関係を説明できる。 3) 交絡因子が結果に大きな影響を与えることを知る。			
4	保健情報と疫学（2）	4) 疫学の調査方法を分類し、説明できる。5) 疫学の研究方法を分類し、説明できる。 6) スクリーニング検査の信頼性の指標を説明できる。			
5	歯科疾患の指標と指数	1) 指標と指数を説明できる。			
6	う蝕の指数と集団での数量化	1) う蝕の特徴を説明できる。 2) う蝕の指数を説明できる。（演習1）			
7	歯周疾患（歯肉炎と歯周炎）の指数	1) 歯周疾患の評価の条件を説明できる。 2) 歯周疾患の指数を説明できる。			
8	口腔清掃状態の指数と集団での評価Ⅰ	1) 全部診査法と部分診査法を説明できる。 2) 口腔清掃状態の指数を説明できる。			
9	口腔清掃状態の指数と集団での評価Ⅱ	1) 口腔清掃状態の指数を説明できる。（演習2）			
10	不正咬合と歯列不正の指数 歯のフッ素症指数	1) 不正咬合と歯列不正の指数を説明できる。 2) 歯のフッ素症の分類を説明できる。 3) 歯のフッ素症指数を説明できる。			
14	地域歯科保健の基本的な進め方と健康づくり対策				
15	保健情報の収集				
16	保健情報の分析手順				
17	保健統計の方法				
18	保健情報の分析演習				
19	情報の保護				
20	情報倫理				

授業科目	衛生行政・社会福祉			担当教員	新庄 文明
				実務経験	有:
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年後期
経歴・役職	NPO法人保健福祉文化南光基金代表理事/前長崎大学教授/元大阪大学医学部 兵庫県佐用町(旧南光町)で非常勤歯科医師として衛生行政・福祉医療の実務に関わる経験を講義に反映する				
授 業 目 標					
衛生行政に関する基本的な事項を把握し、歯科衛生士に欠かせない諸法規に関する理解を深める。また、歯科衛生士業務をとりまく社会制度、とくに医療保障制度を中心に、社会保障・社会福祉に関する仕組みの概要について学ぶ。					
成 績 評 価 の 方 法					
授業中の小テスト 10% 授講態度 10% 定期試験 80%					
教科書と参考文献					
教科書:『保健・医療・福祉の制度』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書:『保健生態学』医歯薬出版					
履 修 上 の 注 意(学生に期待すること)					
講義中に適宜実施する小テストの結果は成績に影響しないが、定期試験の多くは小テストの内容から出るので、小テストの内容をよく理解しておくこと。シラバスに示す講義内容については、順序が変更されることがある。					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	衛生行政の目的と基盤: 人々の健康と生活を守る衛生行政の歴史、その仕組み、法律的な背景を学ぶ。				
2	歯科衛生士の職務: 歯科衛生士の沿革とその法律的な背景の変遷、ならびにそれらに対応じた歯科衛生士の権限と義務を理解する。				
3	歯科医師の役割: 歯科衛生士と業務上に不可分の歯科医師の職務や権限、義務を理解する。				
4	関連職種: 歯科衛生士の業務と関連する他の職種について、職務の内容を理解する。				
5	医療に関連する制度と法律: 医療法、健康保険法、薬事法など、医療を支える諸法規の主な内容を理解する。				
6	地域歯科に関連する制度と法律: 歯科衛生士による保健活動の基礎となる、地域保健法、健康増進法その他の法律と、それらに基づく歯科衛生士の役割を学ぶ。				
7	社会保障としての医療: 歯科診療の経済的基盤を支えている医療保険の内容について学ぶ。				
8	社会保障としての介護: 日本の介護サービスの現状とその制度的背景、ならびに歯科衛生士の役割を学ぶ。				
9	社会福祉の現状: 児童福祉、障害者福祉、老人福祉のほか、さまざまな社会扶助の現状を学ぶ。				
10	国民の健康と医療の現状: 各種の統計資料と医療の実績から国民の健康状態の把握について理解する。				

授業科目	生命倫理			担当教員	新庄文明
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	2学年前期
経歴・役職	NPO法人保健福祉文化南光基金代表理事/前長崎大学教授/元大阪大学医学部講師 :長崎大学倫理規定の作成、『歯科医療人間科学へのいさない』の訳出で得た知見を講義を通じて歯科診療における倫理的課題の理解に生かす				
1 歯科衛生士の社会的役割と責任を自覚する 2 健康の社会的格差の要因と医療のニーズ、アクセスの確保に必要な条件を説明できる。 3 インフォームドコンセントにもとづく歯科受信者への必要な配慮ができる。 4 歯科医療に関する倫理的課題について総合的な判断ができる。					
成績評価の方法					
授業中の小テスト 10% 授講態度 10% 定期試験 80%					
教科書と参考文献					
歯科衛生学シリーズ『歯科医療倫理学』(教科書) その他、『歯科医療人間科学のいさない』等の資料をもとに、随時教材配布					
履修上の注意					
1 特に指示する場合を除いて予習は必要ないが学んだことは十分に理解できるよう整理する 2 授業課題の中で特に関心のある分野については自学自習を深める 3 疑問点やさらに深く知りたい内容はそのままにせず、必ず質問して解決する					
No.	授業題目・授業概要				
1	歯科衛生士の社会的責任 歯科衛生士法に定められた歯科衛生士の役割				
2	健康の社会的格差と医療のニーズ 医療者の役割と責任 医療における倫理				
3	患者の人権 患者憲章				
4	インフォームドコンセント 歯科医療におけるコミュニケーション 歯科医療における倫理的課題				
5	特別の配慮を要する人々の歯科医療 高齢者・障害者・感染症患者への配慮 妊婦・幼児・学童への配慮				
6	生命科学と倫理的課題 医療技術と倫理 医療に関する倫理綱領				
7	ワークショップ1: WYFY(What is important for you?)				
8	ワークショップ2: 長らく受診が中断していた17歳の再受診者				
9	ワークショップ3: 歯科診療室におけるジレンマにどう対処するか?				
10					

授業科目	保存修復学			担当教員	介田 圭
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年前期
役職・経歴	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔保健学講座助教・柔鍼スポーツ専門学校公衆衛生非常勤講師(2013～2016)、九州調理師専門学校公衆衛生非常勤講師(2015～2016)長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保存修復部門助教(現在) ・病院にて歯科医師として勤務。臨床現場の経験をもとに修復学の指導にあたる。				
授業目標					
歯質の欠損に対する修復の臨床的意義と方法を理解し、歯科衛生士として必要な知識を習得する。 一連の保存修復治療の流れの中での歯科衛生士の役割について理解する。					
成績評価の方法					
基本的には定期試験100%だが、定期試験で合否のライン上の評価の場合、小テストおよび授業態度を考慮する。					
教科書と参考文献					
歯科衛生士シリーズ 保存修復学 / 医歯薬出版					
履修上の注意					
授業は教科書および授業プリントを中心に行う。					
No.	授業題目・授業概要				
1	歯の保存療法の種類 口腔診査				
2	保存修復の概要				
3	コンポジットレジン修復				
4	セメント修復				
5	間接修復法				
6	間接修復法 保存修復における歯科衛生士の役割				
7	保存修復における歯科衛生士の役割				
8					
9					
10					

授業科目	保存修復学			担当教員	芥川卓也
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	2学年後期
経歴・役職	平成4年5月開業 芥川歯科医院 院長 大学病院にて一般歯科医院から紹介された治療経験をもとに講義を行う。 精神病院併設歯科室での勤務経験あり、心に障がいのある治療経験を生かして講義を行う。				
授業目標					
歯科保存修復に対する、基礎知識を習得し、臨床とのリンクを理解する。					
成績評価の方法					
小テストにて評価する。					
教科書と参考文献					
歯科衛生士シリーズ 保存修復/医歯薬出版 保存修復学総論/永末書店					
履修上の注意					
授業は教科書およびまとめのプリントを用いて行う。 当日中に履修内容の確認テストを行う。					
No.	授業題目・授業概要				
1	保存修復の概要				
2	修復法の種類				
3	コンポジットレジン、セメントについて				
4	保存修復時の診療補助業務				
5					
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	歯内療法学			担当教員	介田 圭
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年前期
経歴・役職	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔保健学講座助教・柔鍼スポーツ専門学校公衆衛生非常勤講師(2013～2016)、 九州調理師専門学校公衆衛生非常勤講師(2015～2016)長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保存修復部門助教(現在) ・病院にて歯科医師として勤務。臨床現場の経験をもとに歯内療法学の指導にあたる。				
授 業 目 標					
外科的歯内療法における術式、使用器具を理解し、歯内療法時の歯科衛生士の役割について理解する。					
成 績 評 価 の 方 法					
基本的には定期試験100%だが、定期試験で合否のライン上の評価の場合、小テストおよび授業態度を考慮す					
教 科 書 と 参 考 文 献					
歯科衛生士シリーズ 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法					
履 修 上 の 注 意					
授業は教科書および授業プリントを中心に行う。					
No.	授業題目・授業概要				
1	外科的歯内療法 歯の外傷				
2	歯内療法における安全対策 歯内療法における歯科衛生士の役割				
3	歯内療法における歯科衛生士の役割				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	歯内療法学			担当教員	梅津寛・原田洋介
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年前期
経歴・役職	<p>梅津 寛 平成2年10月より梅津歯科医院院長 徳島大学歯学部専門課程の4年間で総論各論を学び平成2年開業から、現在に至るまであまたの講習会や専門誌等で自己研鑽を積む 学生には、歯内療法の基礎概論を中心にできるだけわかりやすく教えていきたいと考えています</p> <p>原田 洋介 平成26年よりはらだDentalCareClinic開院 歯科医院にて勤務医として勤務し現在歯科医院を開業している。 患者への歯内療法による治療経験をもとに 講義を行う。</p>				
授 業 目 標					
<p>歯内療法学における歯髄および根尖性歯周疾患の臨床的分類と治療法および歯科衛生士の役割を理解してもらおう。 歯内療法学における一連の治療法ならびに術式、使用器具・薬剤を学習させ理解を図る。</p>					
成 績 評 価 の 方 法					
定期試験(100%)にて評価					
教科書と参考文献					
全国歯科衛生士教育協議会(監修) 歯科衛生士シリーズ「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」					
履 修 上 の 注 意					
特になし					
No.	授業題目・授業概要				
1	歯内療法学の概要 (1章)				
2	歯科衛生士と歯内療法 (8章)				
3	歯髄の保存療法 (2章)				
4	歯髄の除去療法 (3章)				
5	根管治療・根管充填 (4章)				
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	歯周療法学			担当教員	実務経験
					村岡有紀・野田久美子・尾崎幸生・大平真之・一瀬早紀
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	有 2学年前期
経歴・役職	<p>尾崎幸生(長崎大学歯周歯内治療学分野 助教)、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎大学歯学部にて助教として勤務。臨床に携わるとともに基礎的研究も行っている。 <p>村岡有紀(医療法人咲良会村岡ゆき歯科クリニック 理事長)、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学病院、開業医での勤務医経験を経て、2007年に自身で歯科医院を開業し。歯周専門医として実務経験を積んでおります。学校歯科医をしたり、10年以上九文衛生士学院での講義を行っています。 <p>野田久美子(松谷歯科勤務) 1998～歯周病専門医</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科医院に勤務。臨床現場での経験をもとに歯周病学の講義を行う。 <p>大平真之(長崎大学歯周歯内治療学分野勤務)</p> <p>長崎大学病院にて医員として勤務。臨床現場での経験をもとに歯周病学の講義を行う</p> <p>一瀬早紀((長崎大学病院 歯科保存治療室勤務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎大学歯学部にて大学院生として勤務。臨床経験をもとに歯周病学の臨床研究を行う。 				
授 業 目 標					
歯周治療についての基本的概念、目的、術式を理解し、歯科衛生士として必要な歯周治療および診療補助に関する知識を習得する。					
成 績 評 価 の 方 法					
定期テスト80%、授業態度20%					
教科書と参考文献					
歯科衛生士シリーズ 歯周病学 第2版 (全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版)					
履 修 上 の 注 意					
教科書にそって授業を進めます。各自必ず予習復習をするように。					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	歯周治療とは (p2-7)、正常な歯周組織の構造と機能 (p8-16)、歯周病の分類 (p17-27) (大平)				
2	歯周病の原因 (p28-36)、ペリオドンタルメディシン (p37-38)、インプラント周囲疾患 (p39-42)、歯周治療の進め方 (p44-54) (野田)				
3	歯周病の検査 (p55-73) (一瀬)				
4	歯周基本治療 (p73-86)、メインテナンス・SPT(p128-133) (p191-195) (一瀬)				
5	歯周外科治療 (p87-117) (尾崎)				
6	歯周治療の進め方 (p136-138)、検査・診断の補助 (p138-145)、リスクファクターなどに対する指導 (p145-158) (村岡)				
7	口腔機能回復治療 (p118-127)、(p190-191)、歯周外科治療 (p178-190) (大平)				
8	スケーリング・ルートプレーニング (p159-177)、器具・器材の管理 (p196-200) (村岡)				

授業科目	歯科補綴学			担当教員	小柳 悠
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年後期 30時間
経歴・役職	歯科医師 長崎大学病院義歯補綴治療室勤務 大学病院での臨床経験及び、高齢者歯科学の講義、実習経験をもとに歯科補綴学の指導に当たる。				
授業目標					
歯およびその関連組織の欠損に対する修復の臨床的意義と方法を理解し、歯科衛生士として必要な知識を習得する。 一連の補綴治療の流れの中での歯科衛生士の役割について理解する。					
成績評価の方法					
終講テストで60点以上を合格とする 受講態度等を加味する					
教科書と参考文献					
歯科衛生士シリーズ 歯科補綴学 / 医歯薬出版					
履修上の注意					
授業は教科書および授業プリントを中心に行う。					
No.	授業題目・授業概要				
1	歯科補綴学とは、補綴装置の種類、補綴治療に関わる顎口腔系の解剖学的知識、下顎位。				
2	クラウン クラウンの分類、臨床ステップの概説。				
3	ブリッジ(橋義歯、架工義歯) ブリッジの構成と材料、臨床ステップの概説。				
4	部分床義歯 部分床義歯の分類、部分床義歯の構成、臨床ステップの概説。				
5	全部床義歯 全部床義歯の分類、全部床義歯の構成要素、臨床ステップの概説。				
6	器材・薬剤				
7	まとめ				
8					
9					
10					

授業科目	歯科矯正学			担当教員	丸山 陽市・豊屋 睦人
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年後期
経歴・役職	丸山 陽市 1984年～2021年 長崎大学歯学部 元 長崎大学病院医療情報部副部長・矯正歯科副科長 歯科医院にて矯正歯科医として勤務。臨床経験をもとに歯科矯正学の講義を行う。				
	豊屋 睦人 花みずき矯正歯科 院長 長崎大学病院文部科学教官助手・岡山市矯正専門医院勤務・花みずき矯正歯科 院長として、また、長崎大学病院での矯正治療経験、長崎大学歯学部生への指導等の経験をもとに講義を行う。				
授 業 目 標					
歯科矯正学の概要を理解させ、矯正歯科における歯科衛生士の役割を十分に理解したうえでの口腔管理、口腔習癖排除の指導、歯科矯正治療の診療補助・介補などを修得する。					
成 績 評 価 の 方 法					
定期試験100%(60点以上合格)					
教科書と参考文献					
歯科衛生士シリーズ 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正(医歯薬出版株式会社)					
履 修 上 の 注 意					
特になし					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	矯正歯科治療の概要 1.歯科矯正学と矯正治療の目的 2.矯正歯科治療の需要と必要性 3.矯正歯科治療のベネフィットとリスク 4.矯正歯科治療とチーム医療				
2	成長発育 1.身体の成長発育 2.頭蓋および顎顔面の成長発育 3.歯・歯列の成長発育 4.口腔機能の発達				
3	正常咬合と不正咬合 1.正常咬合 2.不正咬合 3.不正咬合の分類 4.不正咬合の原因 5.不正咬合の予防				
4	矯正歯科診断 1.矯正歯科治療における診断 2.矯正歯科診断に必要な診査 3.症例分析 4.非抜歯治療と抜歯治療				
5	矯正歯科治療と力-矯正力・顎整形力・保定 1.歯の移動と固定 2.歯の移動と組織反応 3.歯の移動様式 4.矯正力と顎整形力 5.保定				
6	矯正装置 1.可撤式矯正装置 2.固定式矯正装置 3.機能的矯正装置 4.上顎拡大装置 5.顎外固定装置 6.口腔習癖装置 7.保定装置				
7	矯正歯科治療の実際 1.上下顎の前後的關係の不調和 2.上下顎の垂直關係の不調和 3.成人矯正 4.口腔顔面の形成異常と変形 5.歯の埋伏と歯数の異常 6.矯正治療時のトラブル 7.健康保険が適用される矯正歯科治療				
8	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 1.矯正歯科診断に関わる業務 2.矯正歯科診療時の業務 3.矯正歯科患者と口腔保健管理 4.口腔筋機能療法 5.器材、資料、文書の管理 6.個人情報保護				
9	矯正歯科見学・・・ 小林昭(小林矯正歯科)、前畑満雄(まえはた矯正歯科)、徳田恒宏(とくだ矯正歯科)				
10					

授業科目	口腔外科・歯科麻酔学			担当教員	高橋 理
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年後期(14時間)
経歴・役職	九州歯科大学 口腔外科 助教 口腔外科:認定医 九州歯科大学附属病院に口腔外科医として勤務。臨床現場の経験をもとに講義をおこなう。				
授業目標					
口腔外科疾患の特徴・病態について理解を深める。 口腔外科疾患の治療法について理解を深める 麻酔学の基礎知識と救急救命処置について理解を深める。					
成績評価の方法					
筆記試験を行い, 60点以上を合格とする。					
教科書と参考文献					
歯科衛生士シリーズ 口腔外科・歯科麻酔学 (医歯薬出版)					
履修上の注意					
特になし					
No.	授業題目・授業概要				
1	I: 口腔外科の概要 (I編1章, 2章相当) * 口腔外科の特殊性 * 口腔疾患と他科疾患との関係				
2	II: 口腔領域の先天異常・変形 (I編2章相当) * 埋伏歯, 唇顎口蓋裂, 顎変形症など				
3	III: 口腔粘膜疾患 (I編4章相当) * 前癌病変, 全身疾患の一症状としての粘膜疾患				
4	IV: 口腔領域の嚢胞 (I編6章相当) * 顎骨嚢胞, 軟組織嚢胞				
5	V: 口腔領域の腫瘍 (I編7章相当) * 歯原性腫瘍, 非歯原性良性腫瘍, 腫瘍類似疾患 * 悪性腫瘍				
6	VI: 唾液腺疾患 (I編8章相当) * 炎症, 腫瘍, 唾石, ドライマウス				
7	VII: 神経疾患 (I編9章相当) * 三叉神経痛, 顔面神経麻痺				
8	VIII: 血液疾患と出血傾向 (I編10章相当) * 口腔に症状をあらわす血液疾患, 出血性素因と歯科治療				
9	IX: 口腔顎顔面に症状を現す症候群 (I編付章相当)				
10					

授業科目	口腔外科学・歯科麻酔学			担当教員	平野聡・法師山拓行
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年後期(16時間)
経歴・役職	<p>平野 聡 ひらの歯科小児歯科院長 福岡歯科大学口腔外科および長崎大学口腔外科に勤務。 臨床現場にて経験を積み、同時に学生の指導を行った。その経験をもとに口腔外科学の指導にあたる。</p> <p>法師山 拓行 法師山歯科医院 副院長 大学卒業後、口腔外科にて研修また勤務し、大学病院での口腔外科の診療、手術を行った経験を基に指導にあたる。現在は歯科医院にて一般歯科また、口腔外科の診療を日常的に行っており、その経験を基に指導にあたる。</p>				
授 業 目 標					
<p>歯科保存学、歯科補綴学とともに歯学の根幹をなす学問の一つで、抜歯などの小手術が、日常臨床でも頻繁になされている。超高齢社会の進展に伴い、疾病構造の変化や全身疾患を有する患者の来院などに遭遇する機会が増えた。 取り組みにくく、理解が難しい分野であるが、歯学全般の基盤となる学問であるので、しっかり理解できるよう取り組みたい。</p>					
成 績 評 価 の 方 法					
筆記試験を行い、60点以上を合格とし、満たないものには再試験を行う					
教 科 書 と 参 考 文 献					
歯科衛生士シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 医歯薬出版					
履 修 上 の 注 意					
理解を助けるために、スライドを多用します。症例をしっかり自分の目で見て確認し、理解すること。					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	口腔領域の損傷とその処置(I編3章) *創面処置、整復固定術、歯牙再植術				
2	顎・口腔領域の炎症(I編5章) *化膿性炎症疾患について *歯周膿瘍、歯槽膿瘍、顎炎、顎骨周囲炎など				
3	抜歯術の実際(I編10章⑤⑥) *普通抜歯、難抜歯の実際 *口腔出血に対する処置 *抜歯窩の治癒 など				
4	歯槽骨整形術、小帯切除術の実際など(I編10章①④⑤⑦)				
5	術前処置、クリーンテクニック(I編10章②③) *問診診査、介助者の役割 *手指消毒、術野消毒、清潔域・不潔域 *院内感染防止の為にクリーンテクニック実習				
6	口腔インプラント(I編10章⑤) *インプラント治療の実際 *矯正用マイクロインプラントの実際 *実習				
7	嚢胞摘出術(I編10章⑤) *嚢胞摘出術の実際(開窓療法、1次閉鎖)				
8	顎関節疾患(I編3章④)一追加分 *顎関節症 顎関節脱臼 顎関節強直症				
9	歯科麻酔学(II編) *局所麻酔、全身麻酔、精神鎮静法 *全身的偶発症				
10	口腔外科・歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり(III編) 検査・診断時の業務 口腔外科・歯科麻酔処置における業務など、実際に使用する器具の展示やスライド、DVDなど視聴覚機材を利用して、興味を持たせると同時に、理解を深める				

授業科目	小児歯科学			担当教員	本川渉・品川光春・木下莉沙子・白倉佳奈
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年前期
経歴・役職	本川渉	福岡歯科大学 名誉教授 1973年5月～2010年3月:福岡歯科大学医科歯科総合病院にて小児歯科専門医として勤務 2010年9月～2013年3月:福岡歯科衛生専門学校において教務主幹として勤務 2013年4月～現在に至る:福岡県糸島市にある石井香小児歯科医院にて小児歯科専門医として勤務			
	品川光春	1981年九州歯科大学大学院小児歯科専攻卒(歯学博士号取得)、 1984年しながわ小児歯科医院開業、 1988年日本小児歯科学会認定医、2005年日本小児歯科学会専門医指導医 ・大学病院の小児歯科外来で4年間、小児歯科専門歯科医院で2年間診療。 その後、小児歯科専門の歯科医院を開業して小児歯科臨床の現場の経験をもとに小児歯科学の講義を行う			
	木下莉沙子	2021 長崎大学医歯薬総合研究科 医療専攻 ・大学病院にて小児歯科医として勤務。臨床現場の経験をもとに小児歯科学の指導にあたる。			
	白倉佳奈	2023 長崎大学病院 小児歯科 医員(パート) 病院にて歯科医師として勤務。臨床経験も活かしながら講義を行う。			
授 業 目 標					
小児の口腔の健康を維持し、健全な永久歯列を育成するためのチーム医療を実現するために小児の対応法を含め、必要な知識、技能、態度を修得する。また、小児歯科の臨床の場で必要な小児の診療介助、小児保健指導を修得する。					
成 績 評 価 の 方 法					
講義終了後のペーパーテストにより成績を判定する。					
教 科 書 と 参 考 文 献					
教科書: 歯科衛生学シリーズ 小児歯科 (全国歯科衛生士教育協議会監修) 医歯薬出版					
履 修 上 の 注 意					
教科書での予習・講義後の復習を各自行なうこと。知識と技術がうまく融合するように基礎的な内容と臨床での応用を常に結びつけて考える習慣をつけること。					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	小児歯科学概論 小児の心身の発育、生理的特徴 小児の歯科疾患				
2	顔面頭蓋の発育 歯の発育と異常 歯列および咬合の発育と異常				
3	小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科診療体系の流れ				
4	小児歯科における患者との対応法 障害児の歯科治療				
5	小児歯科診療における歯科衛生士の役割				

授業科目	歯科放射線学			担当教員	森 皓紀
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年後期
経歴・役職	歯科医師 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔診断情報科学分野 大学病院にて画像診断業務に従事。 歯科放射線に必要な基礎および臨床に関する講義を行う。				
授業目標					
歯科医療を行ううえで安全かつ有効な放射線の利用について理解する。					
成績評価の方法					
定期試験(90%前後)と講義時間中に行う小テスト(10%前後)の結果を併せて行う。					
教科書と参考文献					
わかりやすい歯科放射線学(学建書院)					
履修上の注意					
教科書にそって進めます。分からないところは積極的に質問してください。					
No.	授業題目・授業概要				
1	放射線を学ぶ意義 放射線とエックス線				
2	放射線の人体への影響				
3	歯科用エックス線撮影装置				
4	エックス線画像の形成				
5	口内法撮影および診療補助				
6	口外法撮影および診療補助 最新の画像診断				
7	フィルムの現像と管理				
8	デジタルエックス線システム				
9	正常なエックス線画像				
10	病変のエックス線画像				
11	放射線の防護と管理				
12	放射線治療の基礎知識				

授業科目	歯科予防処置Ⅱ			担当教員	山口 夏海
				実務経験	有
授業形態	講義・実習	単位数	2単位	開講時期	2学年前・後期(80時間)
経歴・役職	専任教員 一般歯科で、歯科衛生士業務に従事。 その後、本校の専任教員として勤務。歯科衛生士としての勤務経験を活かし講義を行う。				
授 業 目 標					
1年次に習得した基本的な知識や技術を再確認し、歯周治療の流れに沿った処置や指導の知識と技術を学習する。患者の口腔内をみて指導計画が立てられ、指導内容や説明も具体的に患者の視点の合わせてできることを目標とする。					
成 績 評 価 の 方 法					
定期試験60点以上で合格とする					
教科書と参考文献					
全国歯科衛生士教育協議会監修 『歯科予防処置論・歯科保健指導論』／医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会監修 『歯周病学 第2版』／医歯薬出版 全国歯科衛生士教育協議会監修 『保健生態学 第3版』／医歯薬出版 DES歯学教育スクール歯科衛生士部監修 歯科衛生士 国試の麗人Ⅱ 直前まとめ編					
履 修 上 の 注 意					
1年次に習得したことを踏まえて次の段階に取り組み、セルフケアでは行き届きにくい部位や見落としやすい部位までを把握したうえで、プロフェッショナルケアができるよう口腔内をしっかりとみて実習に取り組むこと					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	<ul style="list-style-type: none"> 超音波スケーラー、エアースケーラーの構成と特徴 超音波スケーラー、エアースケーラーによるスケーリング実習 超音波スケーラー縁下チップによるスケーリング実習 				
2	<ul style="list-style-type: none"> PMTC用器具・器材の用途や目的 PMTC実習 歯面清掃器による実習 				
3	<ul style="list-style-type: none"> 歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理 歯周病進行についての媒体作成(健康な歯肉～歯肉炎～歯周炎の説明のための) 				
4	<ul style="list-style-type: none"> アタッチメントレベル、手用スケーラーによる深いポケットのSRPの復習 根分岐部病変診査の実習 				
5	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導・予防処置による合同実習(1年生を対象にした検査～処置までの一連の流れの実習を2回行い、歯科衛生過程の基本的な考え方と展開する方法を習得する。問題抽出や2回目は1回目との比較を行う) プロービング・手用スケーラーの復習 				
6	<ul style="list-style-type: none"> 偶発事故、感染予防 				
7					
8					
9					
10					

授業科目	歯科保健指導法Ⅱ			担当教員	田島沙織・向井千裕
				実務経験	有
授業形態	講義・実習	単位数	2単位	開講時期	2学年前期・後期
役職	専任教員 一般歯科で、歯科衛生士業務に従事。 その後、本校の専任教員として勤務。歯科衛生士としての勤務経験を活かし講義を行う。				
授 業 目 標					
地域歯科保健活動、日本の健康増進施策についての理解 1年次で学んだ基礎知識をもとに、ブラッシング校外実習実施 予防処置、保健指導合同実習において、口腔内観察力・指導力を身につける					
成 績 評 価 の 方 法					
定期試験60点以上で合格とする					
教科書と参考文献					
教科書・・・全国歯科衛生士 教育協議会 監修「歯科衛生士シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論」 かとうひさこのブラッシングガイド(医歯薬出版株式会社)					
履修上の注意					
<ul style="list-style-type: none"> ・校外でのブラッシング指導が主になる。人前での指導が出来るよう、練習・実践をする。 ・予防処置、保健指導合同実習で処置の内容や検査結果に基づいた説明、指導ができるよう実習に取り組む。 					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	V編2章:地域歯科保健活動～臨地実習の実践例～				
2	乳歯、永久歯萌出順番				
3	校外ブラッシング指導実習(幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校など)・・・時期は4月～12月実施 ※幼稚園1・小中学校3校・支援学校1校				
4	予防処置・保健指導 I・II年合同実習				
5	症例別指導案作成・発表(グループワーク)				
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	栄養指導Ⅱ			担当教員	林 俊介
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	2学年後期(16時間)
経歴・役職	長崎国際大学 健康管理学部 健康栄養学科 准教授 ・医療機関にて管理栄養士として勤務。臨床現場の経験を踏まえ、栄養管理、食事療法、栄養指導(栄養教育)などに関する講義を行う。				
授業目標					
本科目では、健康づくり、疾病予防のための正しい食習慣の形成を目指すための食に関する教育を理解し、ライフステージの各段階で必要とされる食と栄養の知識と問題点を学習する。また、人々が生活を営む地域の実情を知り、地域の健康問題、食生活等の特徴を踏まえた介入が考えられるようになる。さらに各種疾患と口腔環境、口腔ケアの関わりを知り、多職種連携、在宅医療についても学習し、その知識と指導のための技能の習得を目標とする。					
成績評価の方法					
定期テスト(筆記) 90%、授業態度・授業への参加度(出席カード(レポート)) 10% にて評価します。					
教科書と参考文献					
(正) 歯科衛生士シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝(医歯薬出版) (副) 歯科衛生士シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)					
履修上の注意					
本科目では、これまで学習してきた食品と栄養に関する事柄をより発展的な内容に高めて学びます。みなさんの身近な食の問題と歯科の関わりを理解するために、普段から食や健康づくりの話題、ニュース等に関心を持って生活して下さい。講義に積極的に参加し、学習に取り組んで、実りある授業にしましょう。					
No.	授業題目・授業概要				
1	食生活と健康との関連 国民健康・栄養調査 ・国民栄養の現状と課題 栄養指導・栄養教育について				
2	日本人の食事摂取基準 食育と食育基本法、健康日本21、国民健康・栄養調査(長崎県)、生活習慣病 食品成分表、食品構成、野菜350g				
3	食生活指針 食事バランスガイド				
4	ライフステージ別の栄養と調理(1) 乳児期、幼児期、学童期、思春期 ・正しい食習慣の形成、間食、食育、学校給食				
5	ライフステージ別の栄養と調理(2) 成人期、妊娠・授乳期 ・特定健康診査、メタボリックシンドローム				
6	ライフステージ別の栄養と調理(3) 高齢期(8020、介護、健康寿命、誤嚥性肺炎、咀嚼・嚥下障害、嚥下食、介護食)				
7	特別な支援が必要な者への食事指導 障がい児、障がい者、要介助者 スマイルケア食、ユニバーサルデザインフード、低栄養				
8	疾患と口腔ケア 栄養サポートチーム(NST)、多職種連携、在宅医療、胃ろう、歯周病と疾患(糖尿病) まとめ				
9					
10					

授業科目	歯科診療補助法 II			担当教員	田口裕子
				実務経験	有
授業形態	講義・実習	単位数	2単位	開講時期	II 学年前期・後期(80時間)
経歴・役職	専任教員 一般歯科で、歯科衛生士業務に従事。 その後、本校の専任教員として勤務。歯科衛生士としての勤務経験を活かし講義を行う。				
授 業 目 標					
歯科衛生士の診療補助の内容を理解し、出来る限り実践に近い実技トレーニングを行う事によって、臨床実習における実践力を養う。					
成 績 評 価 の 方 法					
定期試験により、6割以上を合格とする。					
教 科 者 と 参 考 文 献					
歯科衛生士シリーズ 「歯科材料」医歯薬出版 歯科衛生士シリーズ 「歯科機器」医歯薬出版 歯科衛生士シリーズ 「歯科診療補助論」医歯薬出版 歯科衛生士のための保存アシスタントブック 歯科衛生士のための補綴アシスタントブック					
履 修 上 の 注 意					
授業における実習が臨床実習において確実に実を結ぶように、実技の反復練習を怠らず、毎回の到達目標を達成できるよう努力すること。					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	トレーセッティング① (各種充填法および修復物の器具・術式を理解する) ・コンポジットレジン充填 ・ガラスアイオノマー充填 ・インレー修復				
2	トレーセッティング② (歯内療法での術式・補助の実習) ・抜髄 ・根管充填				
3	トレーセッティング③ (抜歯術式および器具受け渡しの補助実習) ・普通抜歯 ・複雑抜歯				
4	トレーセッティング④ (歯周外科手術の術式および補助実習) ・歯肉剥離搔爬術 ・新付着術 ・歯肉切除術				
5	トレーセッティング⑤ (口腔外科処置に使用する鋭利な器具の取り扱いについて) ・替え刃メスの取り扱い、縫合糸の取り付け方				
6	トレーセッティング総復習 (器具受け渡しの再確認)				
7	Br印象採得(マネキン実習)				
8	臨床実習前相互実習(総復習)				
9	歯式記入(歯科専用略語の暗記)				

授業科目	臨床検査法			担当教員	隈 博幸
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	2学年前期 15時間
経歴・役職	長崎国際大学薬学部薬学科 臨床検査学研究室 教授 衛生検査所(長崎国際大学薬学研究センター血栓性素因部門) 部門長 長崎国際大学内に衛生検査所を開設し、以後管理者として血液学的検査、 及び新型コロナウイルス感染症(COVID-19)検査業務に従事。 臨床現場における検査業務や行政との調整経験等をもとに、臨床検査学の講義と実習を行う。				
授業目標					
歯科衛生士にとって臨床検査がなぜ必要であるかを理解し、関連する検査の意義、原理、方法、注意点、判定法に関する知識と実践能力を、講義および実習を通じて習得する。					
成績評価の方法					
期末に実施する定期試験の成績を60%として、筆記試験を実施する。 また、講義・実習の内容の理解度を確保するためにレポート(30%)を課す。さらに通常の授業態度を最大10%として評価する。					
教科書と参考文献					
教科書: 全国歯科衛生士教育協議会 監修 歯科衛生士シリーズ 臨床検査/医歯薬出版 参考書: 全国歯科衛生士教育協議会 編集 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 臨床検査法/医歯薬出版					
履修上の注意					
講義は教科書を中心に行う。必要に応じて参考資料を配布する。 実習に関しては、注意事項をよく把握し、指導教官の指示に従うこと。					
No.	授業題目・授業概要				
1	総論: 臨床検査とは 臨床検査の必要性について 生理検査: バイタルサイン(体温・脈拍・血圧・呼吸) 心機能 肺機能 尿検査: 試験紙法 尿の性質について				
2	血液検査と採血法: 血液検査と生化学検査 血液型検査: ABO式検査 Rh式検査 その他 貧血の検査: ヘマトクリット 赤血球の性質と機能				
3	出血性素因の検査: 血液凝固系 凝固因子の種類と性質 感染症の検査: 免疫系・炎症マーカー検査 アレルギー検査 肝機能検査: 肝機能に関わる生化学検査				
4	糖尿病の検査: ヘモグロビンA1c 血糖検査 糖尿病とは 病理検査: 病理細胞検査について				
5	口腔領域の臨床検査: 口臭検査 味覚試験 アレルギーテスト				
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	看護学概論(救急蘇生法) 20時間			担当教員	久保ちどり
				実務経験	有
授業形態	講義・演習	単位数	1単位	開講時期	2学年前期(20時間)
経歴・役職	介護支援専門員・看護師 臨床看護師10年、訪問看護師21年、介護支援専門員専任6年の経験をもとに講義及び実習にあたる				
授業目標					
1. 歯科衛生士に必要な看護の知識を学ぶ。 2. 歯科衛生士に必要な看護ケアの方法を学ぶ。 3. 他職種との連携の必要性を理解し、医療チームの一員としての自覚を持つ。					
成績評価の方法					
試験およびレポートにより評価する。					
全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会編集: 歯科衛生士のための看護学大意第4版, 医歯薬出版株式会社. 参考図書については随時紹介する。					
No.	授業題目・授業概要				
1	病院におけるチーム医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を理解する。 看護の歴史、看護の定義や看護の対象、看護の役割について学ぶ。				
2	地域医療活動における歯科衛生士の役割と地域包括ケアシステムについて理解する。				
3	歯科衛生士が知っておくべき看護技術……バイタルサインについての理解を深める。				
4	歯科衛生士が知っておくべき看護技術……バイタルサイン測定の手技を習得する。				
5	コミュニケーションの取り方、患者との接し方について学ぶ。 摂食、食べることの意義。摂食・嚥下障害の食事の選択や接取方法について理解する。				
6	安全に配慮した食事の工夫と介助の仕方について習得する。				
7	嚥下訓練と口腔ケアについて習得する。 緊急時の対応。				
8	患者の安全と安楽への援助……安全安楽な姿勢への援助。褥瘡の予防。 体位変換などの技術の習得。				
9	患者の安全と安楽への援助……障害のある人への介助の仕方を習得する。				
10	その他の看護技術(巻法・吸入・吸引など) 感染対策、スリダート・プリコーションについて学び、防護用具の着脱法を習得する。				
11	試験				

授業科目	院内感染予防学			担当教員	新庄文明
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	2学年前期
経歴・役職	NPO法人保健福祉文化南光基金代表理事/前長崎大学教授/元大阪大学医学部講師 日本公衆衛生学会理事会感染症委員会および日本歯科医師会感染予防対策委員としての知見を診療室における対応への理解と習得に生かす(感染予防対策)				
授 業 目 標					
1 感染および感染予防の基本を理解する 2 歯科医療における受診者・感染者への配慮ができる 3 歯科診療室における感染予防の目的が説明できる 4 歯科医療における必要な感染予防対策ができる					
成 績 評 価 の 方 法					
授業中の小テスト 10% 授講態度 10% 定期試験 80%					
教科書と参考文献					
最新歯科衛生士教本『保健生態学』(日衛協監修・医歯薬刊出版)必携参考書 『歯科保健指導ハンドブック』(日衛編・医歯薬刊出版)抜粋コピーを配布 その他、随時資料配布					
履 修 上 の 注 意					
1 特に指示する場合を除いて予習は必要ないが、学んだことは十分に理解できるよう整理する 2 授業課題の中で特に関心のある分野については自学自習を深める 3 疑問点やさらに深く知りたい内容はそのままにせず、必ず質問して解決する					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	感染とは何か 感染症の基礎 感染予防の原則				
2	感染源対策 検査、検疫 保菌者(キャリア)				
3	感染経路対策 消毒と滅菌 接触機会の制限				
4	感受性対策 抵抗力の保持 予防接種				
5	歯科診療室における感染予防 1 歯科疾患と感染症 ユニバーサルプリコーションとスタンダードプリコーション				
6	歯科診療室における感染予防 2 バリアーテクニック 医療廃棄物の処理				
7	歯科診療室における感染予防 3 予防接種とその限界 針刺し事故の予防と対処				
8	歯科診療室における感染予防 4 感染者の人権とQOLの確保 感染症を有する患者への対応				
9	歯科診療室における感染予防 5 実習:バリアテクニックとリキャップ ワークショップ:感染機会と感染防御				
10					

授業科目	医療保険事務			担当教員	森 希
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年 後期
経歴・役職	歯科衛生士 歯科医療事務検定合格 歯科レセプト経験有 歯科医院にて歯科衛生士としての臨床実務経験有				
授 業 目 標					
医療保険の種類と歯科請求事務の基本計算を習得させる。 歯科事務管理士技能認定試験を受験し合格を目指す。 歯科請求事務(計算)とレセプトへの記載方法をマスターする。					
成 績 評 価 の 方 法					
定期試験(学科)60点以上を合格とする。					
教科書と参考文献					
医療事務の実際～基礎編～、医療事務の実際～応用編～、学習サポートブック、練習問題集 歯科試験問題集、プリント					
履修上の注意					
口腔内の基本知識が習得されていることを前提として授業を進めるので、部位名・病名・治療内容(流れ)を把握しておくこと。また、予習よりも復習に力を入れること。出された課題を確実に提出すること。 医療保険の種類を説明する上で保険証、レセプト作成にあたってボールペン、請求計算をする際に電卓が必要。					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	医療機関の概要と医療保険のしくみについて 保険給付と患者負担について				
2	カルテの種類 カルテへの転記・治療費の計算方法				
3	初診料・再診料について(点数、レセプトの記入方法)				
4	投薬料について(点数、レセプトの記入方法) 薬剤料の算定方法				
5	治療内容別算定方法(注射、処置、手術、麻酔、検査、画像診断、医学管理、在宅医療) 練習問題(各項目内容のプリント)				
6	歯冠修復(充填・インレー・鑄造冠・ジャケット冠・乳歯金属冠) 練習問題(トレーニングブック)				
7	欠損補綴(加工義歯・有床義歯) 練習問題(トレーニングブック)				
8	学科練習問題 (治療の流れ、その他)				
9	修理、再装着、未来院請求 練習問題(トレーニングブック)				
10	歯科試験問題(解説解答) 医療事務管理士技能検定試験				

授業科目	茶道文化 II			担当教員	安部直樹・嶋内麻佐子
				実務経験	無
授業形態	実習	単位数	1単位	開講時期	2学年前期
経歴・役職	安部直樹 学校法人九州文化学園 理事長 嶋内麻佐子 長崎国際大学 教授				
授 業 目 標					
茶道文化IIでは、Iで学んだ薄茶点前を基礎に濃茶点前を身に付け、茶道の本質を感じ取っていただきたい。濃茶席で使用する茶道具の名称や使用法、客や亭主の心得などを学ぶ。美味しい煎茶の入れ方・茶菓子の出し方日本間での立ち居振る舞いなど、家庭・職場・社会生活に役立つ。					
成 績 評 価 の 方 法					
濃茶点前の実技試験を実施し、それにより評価する。正確な濃茶点前ができたか。よどみなく点前を最後まで続けることができたか、道具を丁寧に扱うことができたかなどを中心に総合的に評価する。					
教科書と参考文献					
嶋内麻佐子著「茶道文化 基礎編」本学独自テキスト					
履修上の注意					
茶道を茶室の中からだけでなく、日常の生活の中に活かす努力をしていただきたい。					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	煎茶について				
2	職員紹介、濃茶見本点前、出し袱紗の折り方、仕服の紐結び				
3	濃茶点前前半				
4	濃茶点前 割稽古・茶の練り方				
5	濃茶点前前半				
6	濃茶点前後半 割稽古・仕舞う段階				
7	濃茶点前後半				
8	花寄せ・炭点前				
9	濃茶点前復習				
10	濃茶点前試験				
11	茶道大会の概説 濃茶席での客点前				
12	茶道大会				
13	初釜				
14	松芳忌				
15					

授業科目	行動科学(カウンセリング論)			担当教員	富崎 朋子
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	2単位	開講時期	2学年後期
経歴・役職	京都教育大学大学院修士課程修了、公認心理師、臨床心理士、 長崎県臨床心理士会理事、県北心理士会副会長、佐世保共済病院公認心理師 乳幼児への発達支援経験、学校現場における児童・生徒・保護者へのカウンセリング経験、成人・ 高齢者への心理支援経験、県内の心理専門職への研修経験、行政職員のメンタルヘルス相談や 研修講師経験、専門学校等における学生相談経験、急性期の医療機関における心理専門職とし ての経験などをもとに、行動科学の講義を行う。				
授業目標					
行動科学に関する講義とカウンセリングの演習を行い、知識の定着とカウンセリングマインドに基づいた対応力を育むこと を目指す。加えて国家試験対策(行動科学の学習内容に関連する国試過去問題の演習)を行う。					
成績評価の方法					
定期試験の得点と平常点(授業プリントの提出)により評価を行う。【定期試験90%、平常点10%】					
教科書と参考文献					
心身健康科学シリーズ【行動科学概論】					
履修上の注意					
配布したプリントについては、授業内容に沿って記入し、毎回提出する。 提出されたプリントは平常点として換算し、定期試験の際の評価の対象とする。					
No.	授業題目・授業概要				
1	「心理学の研究法」「自分への理解を深める」 心理学の研究法について学ぶ。また、エゴグラムを体験し、自分自身についての理解を深める。				
2	「睡眠とストレス」 睡眠と覚醒について学習する。ストレスやストレスマネジメント法についても詳しく学ぶ。				
3	「行動薬理学」 スキナーの実験について学び、オペラント条件づけ、レスポナント条件づけについて理解する。				
4	「発達心理学(1)」 子どもの発達について学び、歯科治療場面で子どもの対応を行う場合に必要な知識を身につける。				
5	「発達心理学(2)」 青年期以降の発達について学び実際の場面で青年、成人、老年期の患者に適切に対応できる力をつける。				
6	「コミュニケーション」 コミュニケーションの多様性やコミュニケーション・モデルについて理解する。				
7	「行動変容法」 歯科治療場面で使用される行動変容法について学び、国家試験に備えて問題演習を行う。				
8	「カウンセリング実習」 カウンセリングマインドを持って患者や家族と適切に関わることが出来るよう、技法の基礎を学び、ロールプレイ(演習)を行う。				
9	「国家試験過去問題の演習」 実際に出題された問題を繰り返し解き、ポイントとなる知識をしっかりと定着させる。				
10	「まとめ(試験対策など)」 授業の中で学んできた理論やカウンセリング法について、まとめを行う。				

授業科目	行動科学			担当教員	新庄文明
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	2学年前期 10時間
経歴・役職	NPO法人保健福祉文化南光基金代表理事/前長崎大学教授/元大阪大学医学部講師 :病院歯科ならびに公立歯科診療所における経験をコミュニケーションを重視した講義に反映させる				
授 業 目 標					
1 歯科医療における不安や痛みへの対処ができる 2 受診者の口腔保健管理に必要な対処ができる 3 歯科診療室における適切なコミュニケーションができる					
成 績 評 価 の 方 法					
授業中の小テスト 10% 授講態度 10% 定期試験 80%					
教 科 書 と 参 考 文 献					
歯科衛生学シリーズ『歯科医療倫理学』(教科書) その他、『歯科医療人間科学のいざない』等の資料をもとに、随時教材配布					
履 修 上 の 注 意					
特になし					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	歯科受療にたいする人々の姿勢 不安はなぜしようじるか? 不安の軽減方法 痛みはなぜしようじるか? 傷みのコントロール				
2	歯科保健行動 歯科受療行動と予防行動 歯科医療における臨床心理				
3	歯科医療面接 ロールプレイ				
4	歯科医療におけるコミュニケーション セルフケアの支援 歯科医療におけるストレスへの対処				
5					
6					
7					
8					
9					
10					

授業科目	接客作法 II			担当教員	梶谷よし子
				実務経験	有
授業形態	講義・演習	単位数	1単位	開講時期	2学年後期
経歴・役職	企業研修部長 CAとしての勤務経験を活かし、講義にあたる。				
授業目標					
1年次に「接客マナー」で学んだ基礎内容を生かし、さらに具体的実務内容を学ぶ。 「サービス接客検定」問題に沿った学習を行い、2年次に3級の資格取得を目指す。					
成績評価の方法					
筆記70% サービス接客検定結果20% 授業態度10%					
教科書と参考文献					
サービス接客検定実問題集3級					
履修上の注意					
特になし					
No.	授業題目・授業概要				
1	オリエンテーション サービス接客検定取得の意義				
2	サービススタッフの資質、専門知識				
3	一般知識、対人技能				
4	実務技能、総復習				
5	検定対策特別講座 I				
6	検定対策特別講座 II				
7	サービス接客検定				
8					
9					
10					

授業科目	摂食機能・口腔機能訓練 I			担当教員	久松徳子
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	2学年後期
経歴・役職	歯科医師 歯学博士 長崎大学病院 医療教育開発センター・総合歯科臨床教育学 特殊歯科総合治療部 大学病院にて歯科医師として勤務。臨床現場の経験をもとに講義・実習にあたる。				
摂食嚥下リハビリテーションの意義・目的を理解し、摂食嚥下障害に対して、口腔から全身、生活まで考えた対応が 歯科衛生士として必要な知識を習得する。					
成績評価の方法					
定期試験で評価する。					
教科書と参考文献					
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版 医歯薬出版					
履修上の注意					
不明点はいつでも質問すること。					
授業題目・授業概要					
1	摂食嚥下リハビリテーション 講義①				
2	摂食嚥下リハビリテーション 講義②				
3	摂食嚥下リハビリテーション 講義③				
4	摂食嚥下リハビリテーション 講義④				
5	摂食嚥下リハビリテーション 講義⑤				
6	摂食嚥下リハビリテーション 講義⑥				
7	摂食嚥下リハビリテーション 講義⑦				
8	摂食嚥下リハビリテーション 講義⑧				
9	摂食嚥下リハビリテーション 講義⑨				
10	摂食嚥下リハビリテーション 講義⑩				

授業科目	情報処理論Ⅱ			担当教員	宮崎省三
				実務経験	無
授業形態	演習	単位数	1単位	開講時期	2学年前期(20時間)
経歴・役職	学校法人九州文化学園 法人事務局 財務課 課長、2010年より当科目を担当 有資格:Microsoft Office Specialist Master 2003 [PowerPoint、Word Expert、Excel Expert、Access]、ITパスポート				
授 業 目 標					
今までに修得したwordの知識や新たに本講義で修得していく知識や技能を使って、「Power Point」を修学していく。このプレゼンテーションソフトを使用して、各自テーマを決め、発表行う。歯科衛生士として研究発表やブラッシング指導などでプレゼンテーションができるようになる。					
成 績 評 価 の 方 法					
・発表は、最終授業日に行い、学んだ知識や技能を基にその特徴を把握し、その習得状況を総合的に判断し、評価する。					
教 科 書 と 参 考 文 献					
参考書: プリントを配布する。					
履 修 上 の 注 意					
各回毎にステップアップしていき、その操作方法を習得していくといった流れで展開するため出席し、その操作方法をしっかりと理解すること。 わからないことはその場で必ず解決していくこと。					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	Power Pointの活用(1)	プレゼンテーションについて、デモプレゼンテーションの視聴(2種) Power Pointの起動と終了、テキストの挿入・削除・配置・書式設定			
2	Power Pointの活用(2)	表、グラフ、図表、図、図形、、グラフィックおよびオブジェクトの挿入			
3	Power Pointの活用(3)	スライドの追加、削除等、クリップアートの挿入、グラフの加工 *各自プレゼンテーション制作のための課題中間提出			
4	Power Pointの活用(4)	背景、デザインテンプレートの活用、表の作成 *中間提出課題のフィードバック			
5	Power Pointの活用(5)	サウンド・アニメーション効果の追加、タイミングの設定 画面切り替えの活用、スライドショーの開始 *発表内容の最終確認			
6	プレゼンテーション制作(1)	様々な印刷、配布資料の作成、プレゼンテーションのための制作 および実践			
7	プレゼンテーション制作(2)	プレゼンテーションのための制作および実践 *発表レジュメの配布			
8	プレゼンテーション制作(3)	プレゼンテーションのための制作および実践			
9	プレゼンテーション制作(4)	プレゼンテーションのための制作および実践			
10	プレゼンテーションの実践	各自製作のプレゼンテーション発表、総評、アンケート			

授業科目	リハビリテーション概論			担当教員	大山 盛樹
				実務経験	有
授業形態	講義	単位数	1単位	開講時期	2学年前期・後期
経歴・役職	理学療法士 長崎県理学療法士協会役員を長く勤め、最近の理学療法士の試験作成に携わっている。 理学療法士として臨床経験をもとに病院及び、リハビリテーション医療や、介護、講義にあたる				
授 業 目 標					
リハビリテーションの体系を歴史・語源より理解していただき、リハビリテーション医学とチーム医療の必要性まで理解する。					
成 績 評 価 の 方 法					
筆記試験、レポート、出席、授業状況による総合評価 ・定期テスト70% ・授業態度30%					
教 科 書 と 参 考 文 献					
教科書：一介護福祉士選書一 「リハビリテーション概論」 文献：適宜					
履 修 上 の 注 意					
高齢者・障害を持つ方々の身体的特性を理解し、在宅生活支援等に携わる職種として、摂食嚥下障害に関連する代表的なリハビリテーションの疾病の特徴を学ぶ。					
No.	授 業 題 目 ・ 授 業 概 要				
1	リハビリテーションの歴史と語源 リハビリテーションの理念				
2	ICFとICIDH リハビリテーションとチーム				
3	職業的・社会的リハビリテーション				
4	健康、体力、メタボと運動				
5	介護保険、介護予防、自立支援、フレイル、地域包括ケアシステム				
6	嚥下障害に関連するリハビリテーションの主な疾患				
7	口腔機能、摂食嚥下のリハビリテーション				
8					
9					
10					